

Weekly-Report



C X 週間展望 (5月31日~)

調査課 菊川 弘之

ドル・円(1)

【先週レビュー】

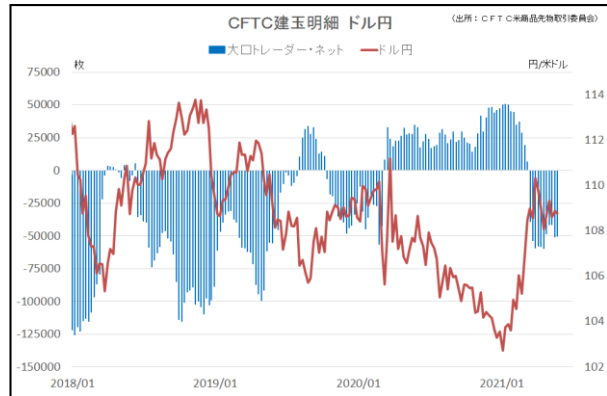
先週レポートで「FOMC議事録を受けて、一部で早期のテーパリング観測が浮上したものの、パウエルFRB議長は、これまでに量的緩和の縮小(テーパリング)の「議論を始めるのは時期尚早」との見解を繰り返して

おり、最近の米経済指標は物価指標を除くと予想から下振れしているものが多く、米長期金利上昇や、ドル買いにつながりにくくなっている。

実効レート乖離もあり、ドル円は下値リスク(円高ドル安)の方が大きいのか? 狭いレンジ相場が続いており、放れ待ち」としたが、ブレイナードFRB理事が足元のインフレの上振れが持続する可能性は低いとの見解を示し、米10年物国債利回りが一時は節目の1.6%を割り込み、前週末から低下。米金融緩和の長期化が見込まれたこともあり、円買い・ドル売り優勢で始まった。ユーロなどに対してドルが下落し、対円でのドル売りに波及した面もあった。前週末に発表されたユーロ圏の5月の購買担当者景気指数(PMI)の改善が改めて材料視され、ユーロ圏の景気回復期待からユーロ高・ドル安が進んだ。原油先物の上昇でカナダドルやオーストラリアドルなど資源国通貨もドルに対して買われた。主要通貨に対するドル売りが、円の対ドル相場に広がった。25日には、独IFO景況感指数が2年ぶりの高水準となり、欧州景気回復期待からユーロが円など主要通貨に対して大幅に上昇し、対ドルでの円売りにつながった。

週末にかけて、パネッタECB専務理事は、国債などの資産購入策について「いまの状況では買い取りペースを落とすことは正当化できない」と指摘。ECBの金融緩和の縮小観測が後退し、ユーロ売り・ドル買いに転じた。

週間新規失業保険申請件数は40万6000件と前週から減少し、市場予想(42万5000件程度)よりも少なかった。米労働市場の改善が進み、経済の回復が加速するとの見方から米長期金利が上昇。円売り・ドル買いが優勢となり、一時110円台まで続伸した。



1
-当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期しておりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

Weekly-Report



C X 週間展望 (5月31日~)

調査課 菊川 弘之

ドル・円(2)

【週末のNY市場】

週末のドル円は、反落。米連邦準備理事会(FRB)が重視する物価指標の4月の米個人消費支出(PCE)デフレーターでエネルギー・食品を除くコア指数は前年同月比3.1%上昇と、市場予想(2.9%上昇)を上回った。インフレ圧力の高まりを示す指標を受け、対主要通貨でドル買いが先行。一時110円20銭と1ヶ月半ぶりの円安・ドル高水準を付けた。

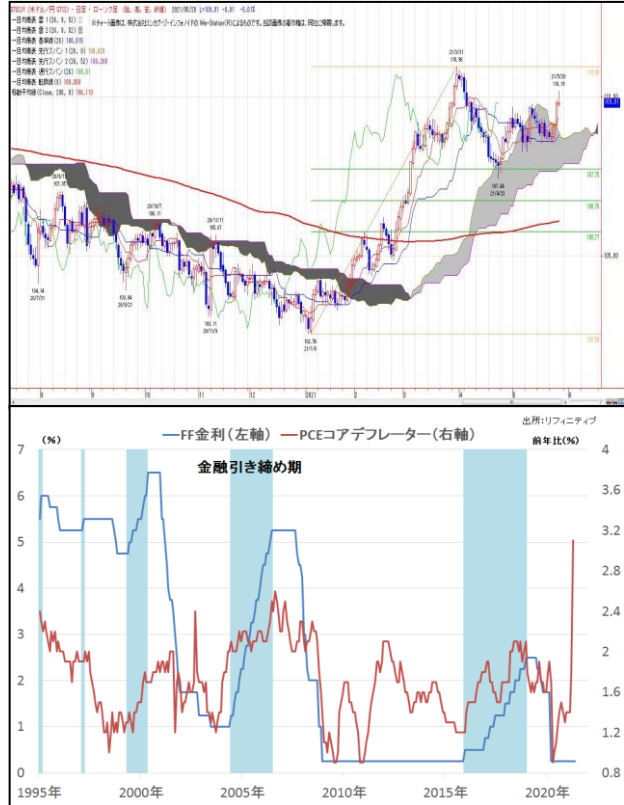
市場予想を上回る米物価指標を受けて円売り・ドル買いが先行したが、米長期金利の低下を受けて次第に円買いが勢いを増した。連休前の月末とあって、持ち高調整目的の円買いもみられた。新型コロナウイルスの感染拡大で昨年春に物価が落ち込んだ影響で、4月分の前年同月比の数値は高く出やすかった。インフレ圧力が高まった状態は長くは続かないとの見方も一因。

CFTC建玉明細(5/25現在)は、50,156枚の売り越し。前週(50,948枚の売り越し)から縮小。

NYダウは3日続伸し、前日比64ドル81セント高の3万4529ドル45セントで終えた。

市場予想を上回る四半期決算を発表した顧客情報管理のセールスフォース・ドットコムが大幅高となり、ダウ平均をけん引した。株価は5%上昇し、1銘柄でダウ平均を約80ドル押し上げた。もっとも、ダウ平均は過去最高値圏にあり、メモリアルデー3連休を前に短期的な利益確定売りも出て上値は重かった。

ナスダック総合株価指数は反発し、前日比12.463ポイント高の1万3748.739で終えた。



Weekly-Report



C X 週間展望（5月31日～）

調査課 菊川 弘之

ドル・円(3)

【今週見通し・戦略】

4月の米消費者物価指数や13日の米生産者物価指数の上振れを受けて、インフレ懸念から早期の量的緩和縮小（テーパリング）観測などが台頭したものの、米長期金利は落ち着きを見せている。

クオールズFRB副議長が26日、国債など資産購入の縮小（テーパリング）を巡り「労働市場の改善が望んでいたよりも遅い」と議論開始に慎重な見方を示した事や、FRB高官から「インフレ圧力の高まりは一時的」などと金融緩和縮小に慎重な発言が相次いでいることから、米長期金利の上値は抑えられている。

ただ、マーケットは、早ければ年明けにもテーパリング開始、その前のFOMCや、8月のジャクソンホールなどで、出口戦略へ向けての地ならしと言うのが市場コンセンサスになりつつある状況だ。

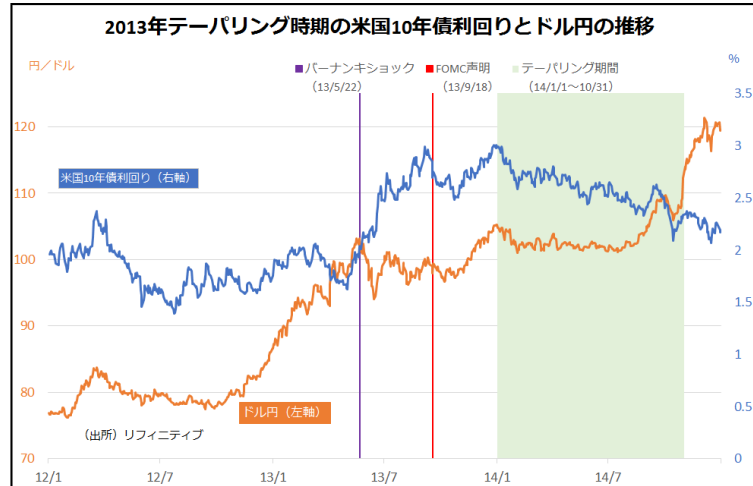
そうした中、注目なのが4日の雇用統計。前回是非農業部門雇用者数（NFP）が、事前予想の100万増に対して、わずか26.6万人増に留まり、3月分の数字も速報時の91.6万人増から77.0万人増に大きく下方修正されドル売り要因となった。

今回の予想値は、NFPは66.3万人増、失業率は5.9%への低下が期待されている。雇用回復傾向自体は継続という見方が広がっている。

一方、自動車部門は、世界的な半導体不足による減産状況は依然厳しいとみられ、産業機械など周辺産業への影響が大きく、予想を下回る可能性もある。

1日に発表されるISM製造業景気指数、3日に発表されるADP雇用者数、ISM非製造業景気指数など、先行関連指標の結果も合わせて、上下どちらにも触れる可能性がある。

週末は110円に乗せたものの、長い上ヒゲ形成。今のところ、3月高値を一気に抜けるほどの勢いはない。バーナンキショック時も、実際のテーパリングが開始された以降は金利低下、ドル円の上値も重かった。



Weekly-Report



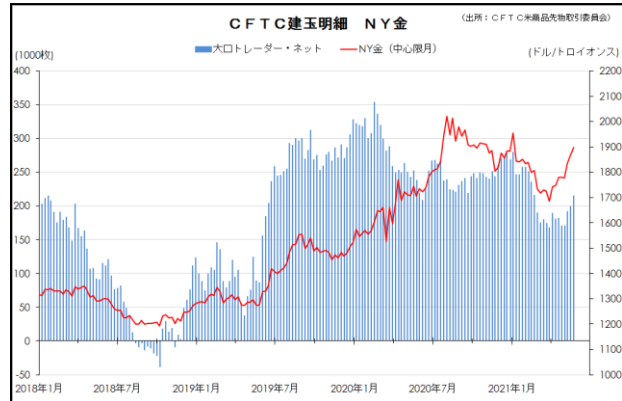
C X 週間展望 (5月31日～)

調査課 菊川 弘之

金標準先物(5/28 清算値: 6,555円)(1)

【前週レビュー】

先週レポートで《CFTC建玉明細での大口投機玉も、年初に大きく膨れ上がっていた買い越しの整理が進み、新たに買いを積み増しやすい内部要因となっている。短期的な買われ過ぎ感に対する調整をこなしながら、中長期上昇トレンドが継続。オシレーター系指標は、短期的な買



われ過ぎ感を示しており、テクニカル的な調整局面も想定されるものの、4月安値を起点とした上昇トレンドとも重なる価格帯別出来高の厚い心理的節目1800ドル水準を割り込まない限りは、押し目買い基調は継続。

～中略)。今回はRSIは70を超えているが、ADXも30を超えており、トレンドの勢いは強い。2020年8月高値～2021年3月安値までの下げ幅に対する半値戻し(1894.4ドル)で上値が抑えられているものの、深押しなく61.8%戻し(1946ドル)を試す可能性もあろう」としたが、先週のNY金(8月限)は5月のコンファレンスボード米消費者信頼感指数や、4月の米新築住宅販売件数など、複数の米経済指標が事前予想を下回る弱気の数字となり、米国債の利回りが一段と低下、ドル安警戒を受けて急速に地合いを引き締め、約4カ月半ぶりのユーロ高ドル安となると一段高となった。

クオールズFRB副議長が26日、国債など資産購入の縮小(テーパリング)を巡り「労働市場の改善が望んでいたよりも遅い」と議論開始に慎重な見方を示した事で、金融緩和が長引くとの見方から押し目買いが入った。FRB高官から「インフレ圧力の高まりは一時的」などと金融緩和縮小に慎重な発言が相次ぎ、金利の上値が抑えられていることや、ビットコインなど暗号資産が急落し、運用資金が仮想通貨から金に戻っていることなどが材料視された。

その後、欧州中央銀行(ECB)のパネッタ専務理事が資産買い入れペースを落とすべきではないとの考えを示したことや、ドイツ国債の利回り低下を受けてユーロ安に振れた事で上げ一服。

Weekly-Report



C X 週間展望 (5月31日~)

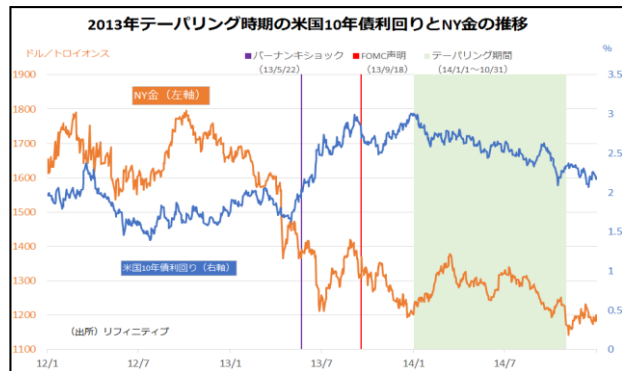
調査課 菊川 弘之

金標準先物(5/28 清算値: 6,555円)(2)

【週末のNY市場】

週末のNY金(8月限)は、反発した。4月の個人消費支出(PCE)デフレーターは、前年同月比3.1%上昇と大幅な伸びを記録した。前年同月比で市場予想を上回って上昇した。インフレ関連指標が強い内容となり、時間外取引の安値を割り込み、1884.3ドルまで下落した。ただ、米連邦準備理事会(FRB)はこれまでインフレは一時的との見方を示しており、ドル高が一服すると、金は急速に地合いを引き締めた。時間外取引の高値を突破し、1907.9ドルまで上昇した。

CFTC建玉明細(5/25 現在)は、214,642枚の買い越し。前週(198,889枚の買い越し)から拡大。



【今週見通し・戦略】

FRB高官から「インフレ圧力の高まりは一時的」などと金融緩和縮小に慎重な発言が相次いでいることから、米長期金利の上値は抑えられている。ただし、欧米ではワクチン接種が進み、徐々に出口戦略が意識されてくる流れとなっている。早ければ年明けにもテーパリング開始、その前のFOMCや、8月のジャクソンホールなどで、出口戦略へ向けての地ならしと言うのが市場コンセンサスになりつつある状況だ。今後のシナリオを占う上で、市場参加者が意識しているのが「バーナンキショック」以降の値動き。実際のテーパリングが始まると、「知ったら終い」となるパターンが確認される。バーナンキショック時の値動きを、一つの参考として、現在は何の位置にいるか？想定外になるケースなら要因は何か？などを基に戦略・戦術を練りたい。

NY金は200日移動平均線に続き、心理的節目1900ドルを超えてきた。オシレーター系指標は、短期的な買われ過ぎ感を示唆しているものの、ADXは高水準でトレンドの勢いは強い。値幅調整ではなく日柄調整の可能性も。雇用統計などを受けた金利動向や、暗号資産の動きが引き続き焦点。

Weekly-Report

C X 週間展望（5月31日～）

日産証券

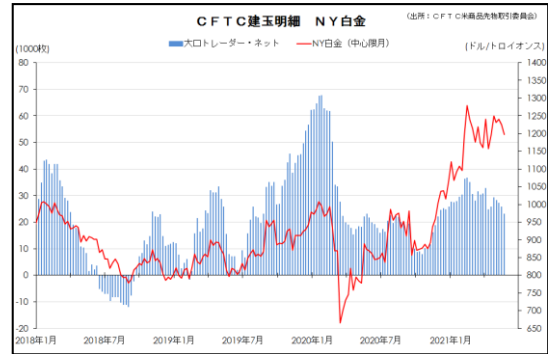
調査課 菊川 弘之

白金先物(5/28 清算値:4,220円)

【前週レビュー】

先週レポートで「2021年の需給予想は、WPICが供給不足、JMが供給超過と分れたが、いずれも2020年と比べて需給タイト感は後退している。」

金との鞘は、ボリンジャー%Bのクロスを伴い下放れしており、 $-\sigma$ 突破では、逆張りではなく、順張りで「金買い・白金売り」ポジション継続の格好。バンドウォークが継続する間は、流れに逆らわない」としたが、先週のNY白金（7月限）は、ドル安、米金利の低下から金が地合いを引き締めたことを好感し、1217.6ドルまで上昇した。ただし、戻りは売られ、終値で1200ドルは維持できず。米国債の利回りが上昇し、ドル高に振れたことが圧迫要因になった。



【週末のNY市場】

週末のNY白金（7月限）は、反発。インフレ関連指標が強い内容となったことや金一段安を受けて軟調となり、1169.1ドルまで下落後は、インフレは一過性との見方からドル安に転じると、押し目を買われて安値から戻した。時間外取引の高値を突破し、1187.2ドルまで上昇した。

CFTC建玉明細（5/25 現在）は、22,987枚の買い越し。前週（25,814枚の買い越し）から縮小。

【今週見通し・戦略】

ワールド・プラチナ・インベストメント・カウンシル（WPIC）の四半期報告によると、2021年第1四半期は世界経済の回復による需要増加や投資需要の継続を受けて1トンの供給不足予想も、JM（ジョンソン・マッセイ）白金族需給調査報告書では、自動車触媒需要は27%増加するものの、2021年のプラチナ市場は供給過多に戻ると予想。いずれも前年と比べると、需給タイト感の後退する内容で、現在の1200ドルを中心とした±100ドル程度の逆張り相場が継続しそう。

Weekly-Report



調査課 菊川 弘之

C X 週間展望（5月31日～）

ゴムRSS3(5/28 清算値:251.3円)

【先週レビュー】

先週レポートで《ゴムRSSは、産地対比の割安感を背景に下値が支えられている一方、ウィンタリング明けが近づいており、在庫も増加傾向で上値も限定的。先限は250円を中心とした保合い形成後、放れ待ちへ移行か？》としたが、先週のRSS3号は、中国国務院が商品価格の「不合理な」上昇を抑制し販売価格への転嫁を防ぐために、需給両面の管理を強化する方針を示したことから石炭・鉄鉱石等につれて、上海ゴムも急落した流れは一服。ゴムは名指しされていないことで、週末にかけて株高・商品高に追随高となった。ドル円が110円近辺まで円安が進行したことも一因。261円（5/28 高値）まで上値を伸ばした。



【全国生ゴム営業倉庫在庫】

全国生ゴム営業倉庫在庫は、5月20日現在11,928トン（前旬比645トン増）。5月中旬の入出庫は入庫1,664トン、出庫1,019トン。

【今週見通し・戦略】

中国の証券監督管理委員会（証監会）は28日、コモディティ価格の変動を注視しており、先物市場の不正行為を取り締まっていると表明。証監会の報道官は会見で「証監会は他の政府機関と協力してコモディティ価格の管理を支援する」と述べた。中国の規制当局は、コモディティ価格の上昇を受けて、現物・デリバティブ市場の監視を強化する方針を繰り返し表明。投機や買いだめを取り締まる意向を示している。中国は、多くの商品の最大需要先で、商品市場に制限を加えれば、商品価格抑制につながる可能性には注意。

国内は新規入着・在庫増加により期近は売られた一方、期先は逆鞘・割安を背景に買われ、当先逆鞘は同鞘化している。産地ではウィンタリング明け近いが、コロナ拡大による労働者や原料の不足が懸念されている。短期的には、28日の上ヒゲ高値（261円）を終値ベースで、抜けるか否かが焦点。

Weekly-Report



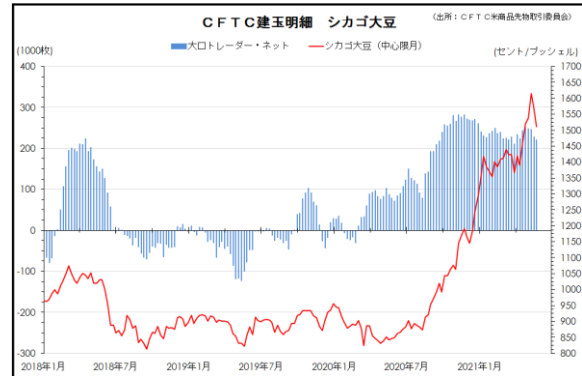
C X 週間展望（5月31日～）

調査課 菊川 弘之

一般大豆先物(5/28 清算値:50,000 円)

【先週レビュー】

先週レポートで「順調な作付・生育が調整安の背景だが、記録的な低在庫率には変わりはなく、最終生産高に大きな影響を与える8月までは、大きな突っ込みは買い拾われやすい地合い」としたが、先週のシカゴ大豆（7月限）は、米産地の降雨を受けて作付及び生育が順調に進展するとの見方が強まったことを嫌気して続落。心理的節目15ドルを割り込んだものの、週末にかけてコーンが制限値幅一杯の反発を見せ、大豆も下げ止まり、追従高となった。



週末のシカゴ大豆（5月限）は、反落。米産地で降雨が見込まれるなか、作付は鈍化する可能性が高いながらも、この雨が大豆の生育にとって恵みの雨になるとの見方が弱材料視された。前日に急伸した後での修正のための転売も入った。

CFTC建玉明細（5/25 現在）は、221,055枚の買い越し。前週（228,341枚の買い越し）から縮小。

【週間純輸出制約高（5月20日までの一週間）】

30万4200トン（事前予想レンジ：10万～65万トン）

【週間作物進捗報告（5月23日までの週）】

作付け：75%（前週61%、前年63%、平年54%）

発芽：41%（前週20%、前年33%、平年25%）

【今週の見通し・戦略】

5月12日にかけて、記録的な低在庫を背景とした需給逼迫警戒感から一代高値を連日更新していたが、生育は良好なスタートを切っており、修正入りとなった。ただ、コーンの急反騰もあり、心理的節目1500セント水準では、一旦買い戻しが入った。天候リスクが最も警戒されるのは8月であり、根本的な需給には危機感が強い。15000ポンド水準での値固めか？

Weekly-Report



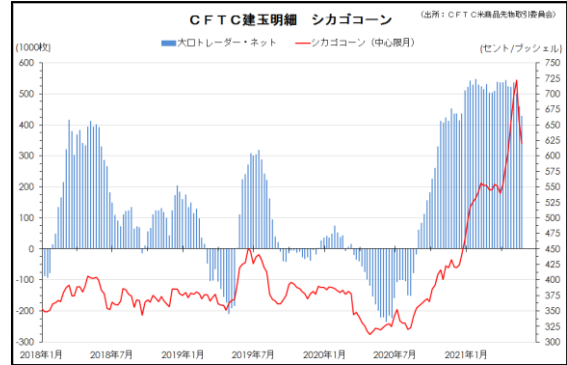
C X 週間展望 (5月31日～)

調査課 菊川 弘之

とうもろこし先物(5/28 清算値:33,880円)

【先週レビュー】

先週レポートで「天候相場の天王山」と呼ばれる独立記念日前後までは600ポンドが下値支持として意識されそう」としたが、先週のシカゴコーンは、作付及び生育が進展していると見られているうえ、産地作付が適正とされる5月中に終了する見通しとなっていることが弱材料視されて大幅続落。また、大量に見られていた中国向けの大口成約が見られなくなったことで、新穀中心に値を下げる展開となり、602.75セント(5/26 安値)まで下げたが、目先の売り巡感が強まり、買い戻す動きが広がった。週間純輸出成約高で旺盛な輸出が報告されたことで、売り方の踏み上げで値幅制限いっぱいまで上昇。



週末のシカゴコーン(7月限)は、反落。前日にストップ高まで買い進まれた前日の流れを受けて買われる場面も見られたが、連休を控え転売が膨らみ軟化した。米産地での降雨とこれを受けて今後生育が順調に進むとの見方が広がったことも一因。CFTC建玉明細(5/25 現在)は、428,426枚の買い越し。前週(459,478枚の買い越し)から縮小。

【週間純輸出制約高(5月20日までの一週間)】

624万7200トン(事前予想レンジ:70万~240万トン)

【週間作物進捗報告(5月23日までの週)】

作付け:90%(前週80%、前年87%、平年80%)

発芽率:61%(前週41%、前年61%、平年54%)

【今週の見通し・戦略】

三連休明けの6月1日に今年1回目の作柄報告があると思われる。市場の関心は作柄に移り、これまで以上に産地の天候に敏感になる。次回の需給報告は6月10日。天候悪化がなければ上値も限定的だが下値も堅い時間帯。

Weekly-Report



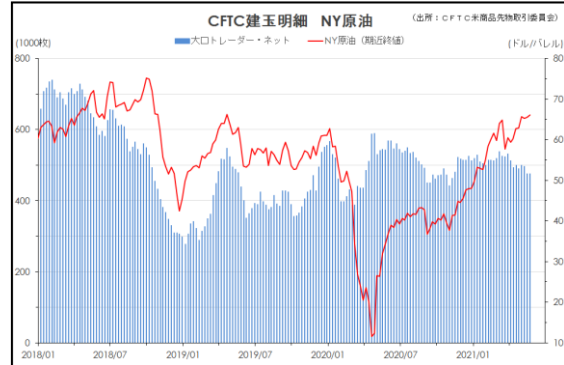
調査課 菊川 弘之

C X 週間展望 (5月31日～)

東京原油(1)

【先週レビュー】

先週レポートで「イランのロウハニ大統領が20日、「米国はイラン産原油への制裁解除を受け入れた」と述べたとロイター通信が報じた。「欧州の関係者らは、協議は進展したが課題は残るとの姿勢を示した」とも伝わったが、協議進展の方が意識された。制裁開始前の生産量と現状の水準を比較すると、日量で約150万バレル程度の増産になる見通し。



アジアで新型コロナウイルスの流行が拡大していることは世界的な需要回復見通しを後退させている。マレーシアでは一日あたりの感染者数が過去最多となった。タイやベトナムでも感染が拡大している。(～中略)。2015年以降、70-75ドル水準が上値抵抗帯として機能している」としたが、先週のNY原油(7月限)は、イラン核合意を巡る協議の不透明感が意識され、同国の原油輸出の再開には時間がかかるとの見方が買いを誘った。イランは国際原子力機関(IAEA)の核査察受け入れの取り決めについて1ヶ月延長することで合意し、核合意の再建協議のための時間的猶予が確保されたものの、ブリンケン米国務長官はイランが核合意を遵守する構えがあるのか不明であると述べ、合意成立が危惧された。核合意の再建交渉は大詰めを迎えているものの、成立をまだ確信できない市場参加者は多い。

また、仮にイラン核合意の再建が成し遂げられ、イランの供給が回復するとしても、年後半にかけてコロナ後の景気回復が続く、石油市場は需要超過のまま推移すると期待されている事も価格上昇の一因。ゴールドマン・サックスが新型コロナウイルスのワクチン普及が進む欧米で人や物の動きが想定より速いペースで増えており、世界の原油需要を押し上げると分析している。

米国の制裁解除によるイランの増産は需給改善見通しを後退させるものの、コロナショックを経て世界の石油需要は上向いており、供給過多に傾くとはみられていない。イランが制裁前の生産量回復を目指し、日量150万バレル程度増産するとしても回復する需要が吸収する見通し。米メモリアルデーはドライブシーズンが本格化する目処とされている。核合意が修復された後のイランの供給量拡大が警戒されている一方、米エネルギー情報局(EIA)週間石油在庫統計で米原油在庫が減少したことが相場を支えた。

Weekly-Report


日産証券

C X 週間展望 (5月31日~)

調査課 菊川 弘之

東京原油(2)**【週末のNY市場】**

NY原油(8月限)は、反落した。夏場のドライブシーズンのガソリン需要が高まるとの期待も強い中、米コア個人消費支出(PCE)価格指数が大幅な伸びを記録したことに加え、米シカゴ景気指数は47年半ぶりの高水準となった。米経済活動の正常化による原油需要の増加を見込んだ買いが先行したが、メモリアルデーを含む3連休を前に目の利益を確定する目的の売りに押された。



バイデン米大統領は、2022会計年度(21年10月—22年9月)の予算教書を議会に提出した。インフラ投資や教育、気候変動対策などに重点を置き、歳出額は要求ベースで6兆0100億ドルに膨らんだ。一方、赤字額は1兆8400億ドルと、過去2年の水準からは縮小する見通しとなった。

南アジアの新型コロナウイルス感染者が累計で3000万人を突破。感染第2波が深刻なインドでコロナワクチンが不足している。インドの人口13億人のうち、ワクチン接種を完了したのはわずか3%程度と低い。

石油輸出国機構(OPEC)とロシアなど非加盟国からなる「OPECプラス」は6月1日に会合を開く。イラン核合意を巡る協議とともにOPECプラスの会合結果を見極めたいという向きが多く、積極的に上値を買う動きが限られた。

CFTC建玉明細(5/25 現在)は、475,490枚の買い越し。前週(475,947枚の買い越し)から微減。

【石油掘削リグ稼働数(米石油サービス会社ベーカー・ヒューズ)】

米石油サービス会社ベーカー・ヒューズが28日公表した統計によると、同日までの1週間の国内石油・天然ガス掘削リグ稼働数は前週比2基増の457基。2020年4月以来の高水準となった。

石油掘削リグは3基増の359基、天然ガスは1基減の98基。

Weekly-Report



C X 週間展望 (5月31日～)

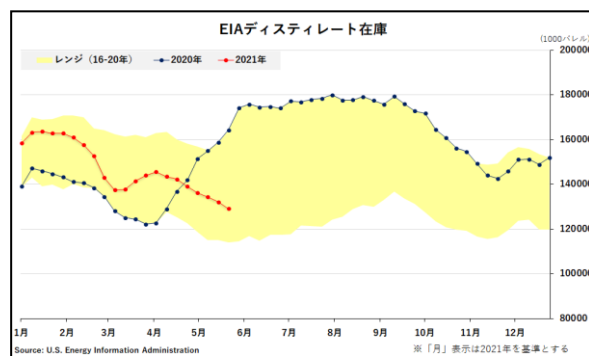
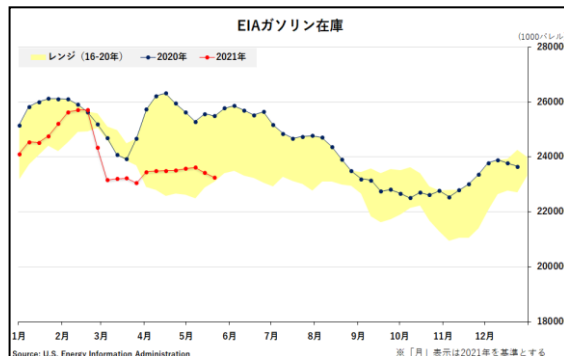
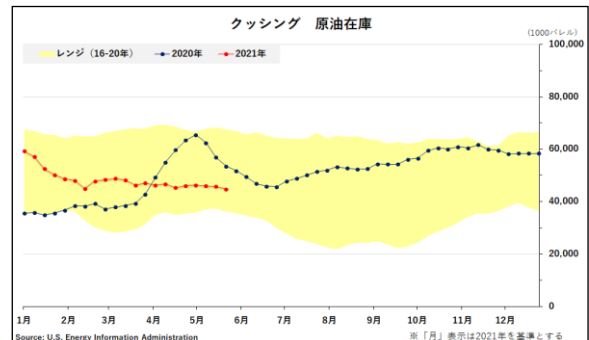
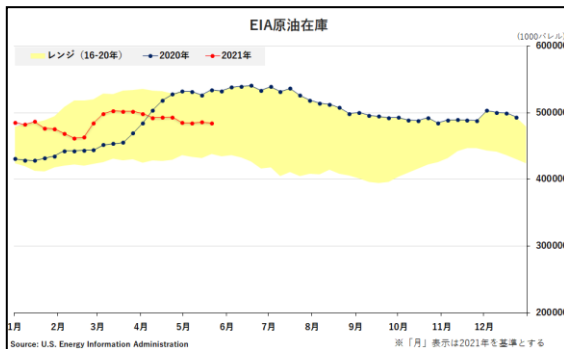
調査課 菊川 弘之

東京原油(3)

【EIA米週間在庫(エネルギー情報局)】

前週比

原油	4億8435万バレル	166万2000バレル減少
クッシング	4476万バレル	100万8000バレル減少
ガソリン	2億3248万バレル	174万5000バレル減少
留出油	1億2908万バレル	301万3000バレル減少



【石油連盟週報】

石油連盟週報(16日～22日)によると、ガソリンの週末在庫は、前週比2.9%増の208万4668キロリットル。灯油在庫は、同1.8%増の151万8888キロリットル。週間原油処理量は、同6.8%減の223万6195キロリットル。推定出荷量は、ガソリンが2.8%増の67万4555キロリットル。灯油が16.1%減の11万7888キロリットル。

Weekly-Report



調査課 菊川 弘之

C X 週間展望 (5月31日~)

東京原油(4)

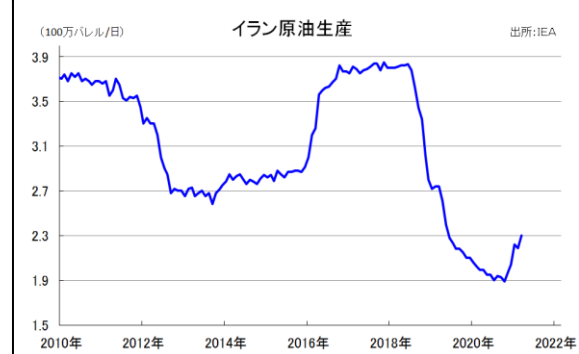
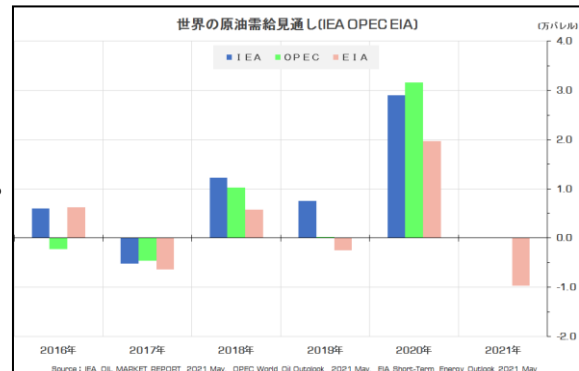
【見通し・戦略】

米エネルギー情報局(EIA)月報によると、3月の米原油生産量は日量1120万バレルとなり、前月比で14.3%増加。月間ベースでは、EIAに記録が残る2005年以来最大の増加幅となった。3月の増加分の大半は、テキサス州とニューメキシコ州が占めた。テキサス州は前月比26.4%増の日量470万バレルと、11カ月ぶりの高水準。ニューメキシコ州も前月比17.6%増の日量120万バレルだった。

5月末の米メモリアルデーから9月初旬の米レーバーデーまでは、米国のドライブシーズンとなる。

6月1日の石油輸出国機構(OPEC)プラス会合と、イラン核合意に対する米国の復帰を巡る協議の進展が目先は二大焦点となる。OPECプラス会合については、7・8月の生産水準を協議すると思われるが、ロシアのノバク副首相が26日、現在原油の世界需給が日量100万バレル不足しているとの見方を示すなど牽制が入っている。

イラン核合意の復活を巡る協議は続いており、合意復活となればイラン産原油の禁輸が解除され、世界の原油需給が緩むとの警戒感が上値を抑えている。イラン核合意が修復された後、イランは増産するとみられているものの、OPECプラスは合意した増産を続ける見通し。先月、OPECプラスは5~7月にかけてサウジアラビアの自主減産を含めて日量200万バレル超の減産を取りやめることを決定している。



Weekly-Report



C X 週間展望 (5月31日~)

調査課 菊川 弘之

【週間行事予定 (5/31~6/4)】

日付	時刻	国名	対象	経済指標・行事予定
5月31日(月)	8:50	日本	4月	鉱工業生産 速報値 (前月比) 季調値
	8:50	日本	4月	小売業販売額 (前年比)
	10:00	中国	5月	国家統計局 製造業購買担当者景気指数 (PMI)
	14:00	日本	4月	新設住宅着工戸数 (前年比)
	15:00	イギリス	5月	ネーションワイド住宅価格 (前月比)
	19:00	ユーロ圏	4月	マネーサプライ M3 伸び率 (前年比)
	21:00	ドイツ	5月	消費者物価指数 (CPI) 速報値 (前年比)
	21:00	ドイツ	5月	EU 基準消費者物価指数 (HICP) 速報値 (前年比)
	休場	米国	---	戦没者記念日 メモリアル・デー
	納会	日本	---	ゴム (TSR20) 2021 年6月限納会日
6月1日(火)	納会	日本	---	東京原油・石油スワップ2021年5月限取引最終日
	8:50	日本	Q1	財務省法人企業統計 (前年比)
	10:45	中国	5月	財新 製造業購買担当者景気指数 (PMI) 改定値
	15:00	ドイツ	4月	小売売上高 (前年比) 実質
	16:55	ドイツ	5月	マークイット / BME 製造業購買担当者景気指数 (PMI)
	16:55	ドイツ	5月	失業者数増減 季調値
	16:55	ドイツ	5月	失業率 季調値
	17:00	ユーロ圏	5月	マークイット 製造業購買担当者景気指数 (PMI) 改定値
	17:30	イギリス	5月	マークイット / CIPS 製造業購買担当者景気指数 (PMI) 改定値
	18:00	ユーロ圏	5月	EU 基準消費者物価指数 (HICP) 速報値 (前年比)
	18:00	ユーロ圏	5月	EU 基準消費者物価指数 (HICP) (食品・エネルギー除) 速報値 (前年比)
	18:00	ユーロ圏	4月	失業率
	22:45	米国	5月	マークイット 製造業購買担当者景気指数 (PMI) 改定値
	23:00	米国	4月	建設支出 (前月比)
6月2日(水)	23:00	米国	5月	ISM 製造業購買担当者景気指数 (PMI)
	23:00	米国	5月	ISM 製造業価格指数
	17:30	イギリス	4月	英中銀 消費者信用残高
	17:30	イギリス	4月	住宅ローン貸付額
6月3日(木)	18:00	ユーロ圏	4月	生産者物価指数 (PPI) (前月比)
	10:45	中国	5月	財新 サービス業購買担当者景気指数 (PMI)
	15:00	イギリス	5月	準備資産総額
	16:55	ドイツ	5月	マークイット サービス部門購買担当者景気指数 (PMI)
	16:55	ドイツ	5月	マークイット 総合購買担当者景気指数 (PMI) 改定値
	17:00	ユーロ圏	5月	マークイット サービス部門購買担当者景気指数 (PMI) 改定値
	17:00	ユーロ圏	5月	マークイット 総合購買担当者景気指数 (PMI) 改定値
	17:30	イギリス	5月	マークイット / CIPS サービス部門購買担当者景気指数 (PMI) 改定値
	21:15	米国	5月	ADP 民間部門雇用者数
	21:30	米国	月24日, 週:	新規失業保険申請件数
	22:45	米国	5月	マークイット 総合購買担当者景気指数 (PMI) 改定値
	22:45	米国	5月	マークイット サービス部門購買担当者景気指数 (PMI) 改定値
	23:00	米国	5月	ISM 非製造業総合指数
6月4日(金)	8:30	日本	4月	全世帯消費支出 (前年比)
	17:30	イギリス	5月	マークイット / CIPS 建設業購買担当者景気指数 (PMI)
	18:00	ユーロ圏	4月	小売売上高 (前月比)
	21:30	米国	5月	雇用統計
	23:00	米国	4月	製造業新規受注 (前月比)

(※) 発表日時は日本時間

発表日時は作成段階のものであり、予告なしに変更される場合があります。

14
-当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

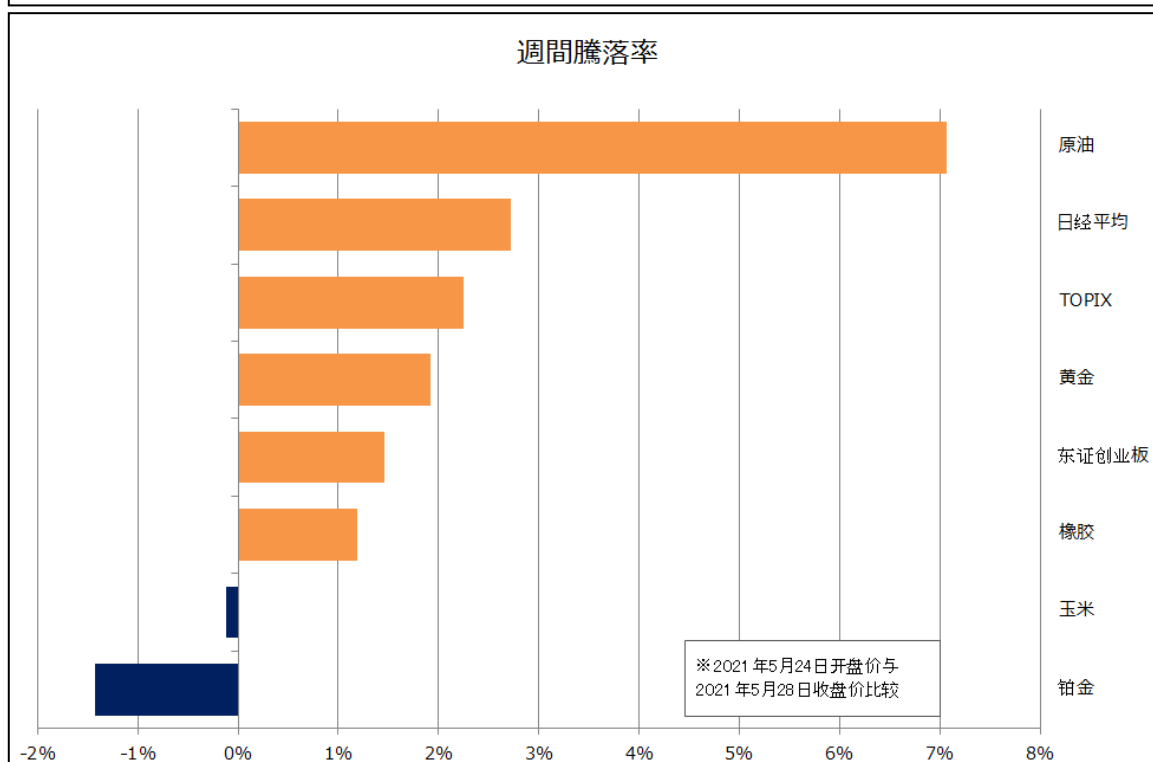
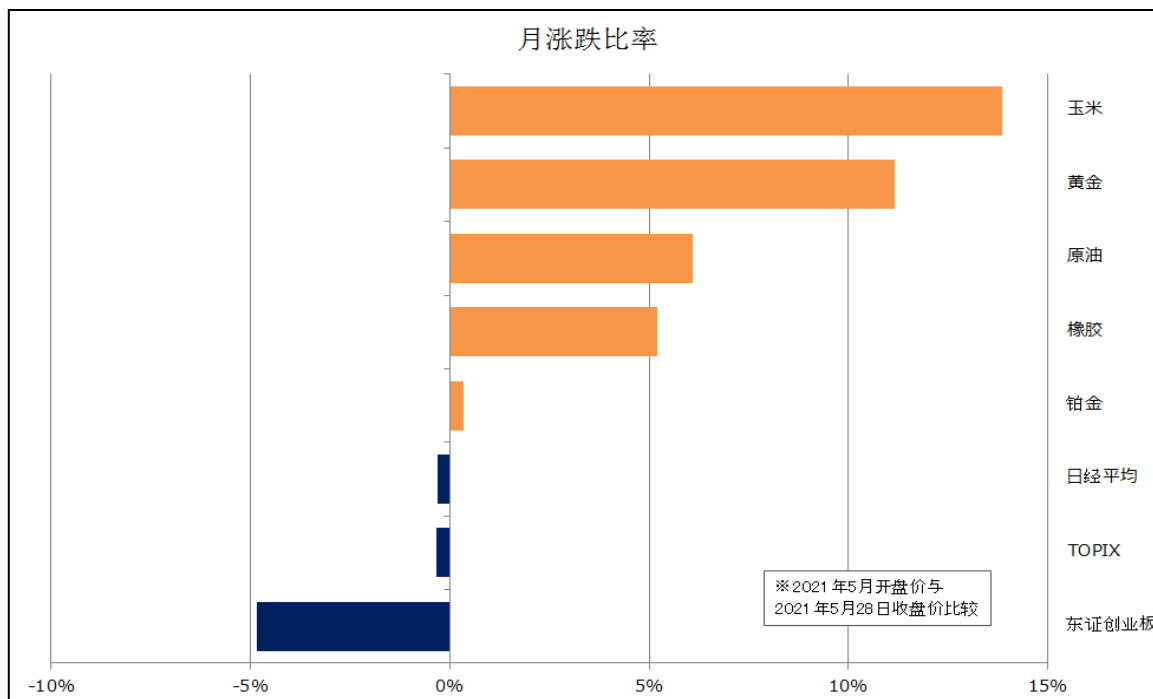
Weekly-Report



C X 週間展望 (5月31日~)

調査課 菊川 弘之

【騰落率(月間・週間)】



15
-当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはおりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

【留意事項】

弊社が取り扱っている金融商品等にご投資いただく際には、各商品等に所定の手数料や諸経費等をご負担いただく場合があります。また、各商品等には価格の変動等により損失を生じる恐れがあります。商品や取引によっては、投資元本を超える損失が発生することがあります。各商品等ごとに手数料等及びリスクは異なりますので、各商品等へのご投資にかかる手数料等及びリスクについては、当該金融商品等の取引概要やリスク説明等、契約締結前交付書面、目論見書、お客様向け資料等を十分にご確認ください。

<商号等> 日産証券株式会社（〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町 1-38-11）

関東財務局長（金商）第 131 号 金融商品取引業者 商品先物取引業者

<加入協会> 日本証券業協会、日本商品先物取引協会、一般社団法人金融先物取引業協会

当資料は情報提供を目的としており、弊社取扱商品に係る売買を勧誘するものではありません。内容は、正確性、完全性に万全を期してはおりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い致します。